



神谷明の声で オシたちはずっと育ってきた。



『ゲッターロボ』の流竜馬に始まり、70年代半ばにはロボットアニメの主人公を数多く熱演。「叫びの明」と呼ばれた。そして80年代に入って声を務めたのが、上の3人である。昭和50年男にとって、神谷明の声はいつもそばにあった。

IPROFILE 神谷明/かみやあきら
昭和21年9月18日、神奈川県生まれ。役者になることを目指しテアトルエコーに入団。テレビアニメ『魔法のマコちゃん』で声優デビュー。『バビル2世』で初主演。青二プロダクションに籍を移し数々の主役を務め、独立。冴羽商事を立ち上げる。

昭和50年男にとって、『キン肉マン』は8歳。『北斗の拳』は9歳。そして『シティーハンター』は12歳の時に、それぞれテレビアニメ化された作品だ。主役であるキン肉スグル、ケンシロウ、冴羽獠の声を担当したが、そう、声優神谷明である。神谷にとって代表作といえるこの3人は、本誌読者にとって、まさに血肉の一部といえるいいキャラクターであろう。神谷が演じたその声で昭和50年男は育ち、そして彼らから勇気をもらって、今日まで生きてきたといっても過言ではない。

最初にアニメ化されたのはキン肉マン、1983年のことだ。「キン肉マン」役は、オーディションで決まりました。台本を読ませてもらった時にもすごく面白くて、自分の中でパッとイメージができて、それまでコミックは読んでこなかったという。オーディションの場で、初めて知ったということだ。そしてまた、当時はちょうど、アニメ化された『がんばれ!! タブチくん!!』が人気を博していた時代。これの主人公・タブチくんの声優をしていた西田敏行のイメージが、実はアニメ版『キン肉マン』の製作者側にはあったという。

「...というのは後から聞いた話なんです、事前にそれを聞いていなくてよかったって思うんです。面白く楽しく、思いを込めて素直に演じたことで、副調整室にいたスタッフが、これだ! って一発で決めてくれたそうです」

神谷が初めてアニメの主人公を演じたのは73年『バビル2世』から。それ以降、『ゼロテスター』の吹雪シン、『荒野の少年イサム』『ゲッターロボ』の流竜馬や『勇者ライディーン』のひびき光など、ずっと二枚目役を演じてきた。

「正直言うと、三枚目をやってみたいとは思っていませんでした。でもチャンスがなかなかなくて。そんな中でも、『キン肉マン』のスタートと同じ時期にやってきた『うる星やつら』の面堂終太郎くんが、二枚目から三枚目にガラッと変わるといふキャラクターで。今考えれば、僕にとって彼はとても大きなキーポイントだったんだと思います」

白い学ランを身にまとい、面堂財閥の跡取り息子にして、ハンサムなモテ男。しかし閉所恐怖症と暗所恐怖症があり、こ



「♪牛丼一筋300年」など、作品中で歌を歌うことも多かった。また挿入歌のキャラクターソング『See You Again, Hero!』は今でもライブで欠かさず歌っている、神谷本人もお気に入りの一曲。また夏季限定のエンディングテーマ『キン肉マン音頭』も当時、人気を博した

レコード提供: 鈴木啓之

神谷本人の書き込みが見られるキン肉マンの台本。ミートくん役の松島みのりとのやりとりの場面だ。当時、実際に使用していた貴重な品だが、大半は捨ててしまったそう



80年代はまさに、神谷自身の忙しさもピークを迎えていた時期。全くキャラクターの異なる人物を午前と午後で演じ分けるにあたり、その切り替えは大変だったと語る

「これだ!」とキン肉マン役は一発で決定。

